

- 1 派遣期日 平成22年10月22日（金）
- 2 研修先 学校名 習志野市立第五中学校
所在地 〒275-0017
千葉県習志野市藤崎2-3-16
<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/5chu/>
- 3 研修内容 平成22年度 習志野市教育委員会指定 公開研究会

(1) 研究主題

「生きる力を育む学習指導を目指して」
～ 確かな学力の定着を図る学習活動のあり方 ～
「新教育過程の編成と全教科における言語活動の明確化」

(2) 内容

公開授業・全体会・記念講演・分科会

① 言語活動の充実について（五中の考え方）

確かな学力とは、基礎的・基本的な知識・技能を習得しこれらを活用して課題を見だしそれを解決するための思考力・判断力・表現力を育成することにより、習得したことを生かして思考・判断し、それを外に向かって表現することが大切となる。そのため、言語活動が重視されることになる。全教科で共通意識をもって学習活動が行えるよう言語活動の研究にあたることにした。

② 読解力のとらえ方について

「読む」・・・『社会で生きる、テキストから読み取る力』

※実社会に出た時活用できる・活かすことができるという意味

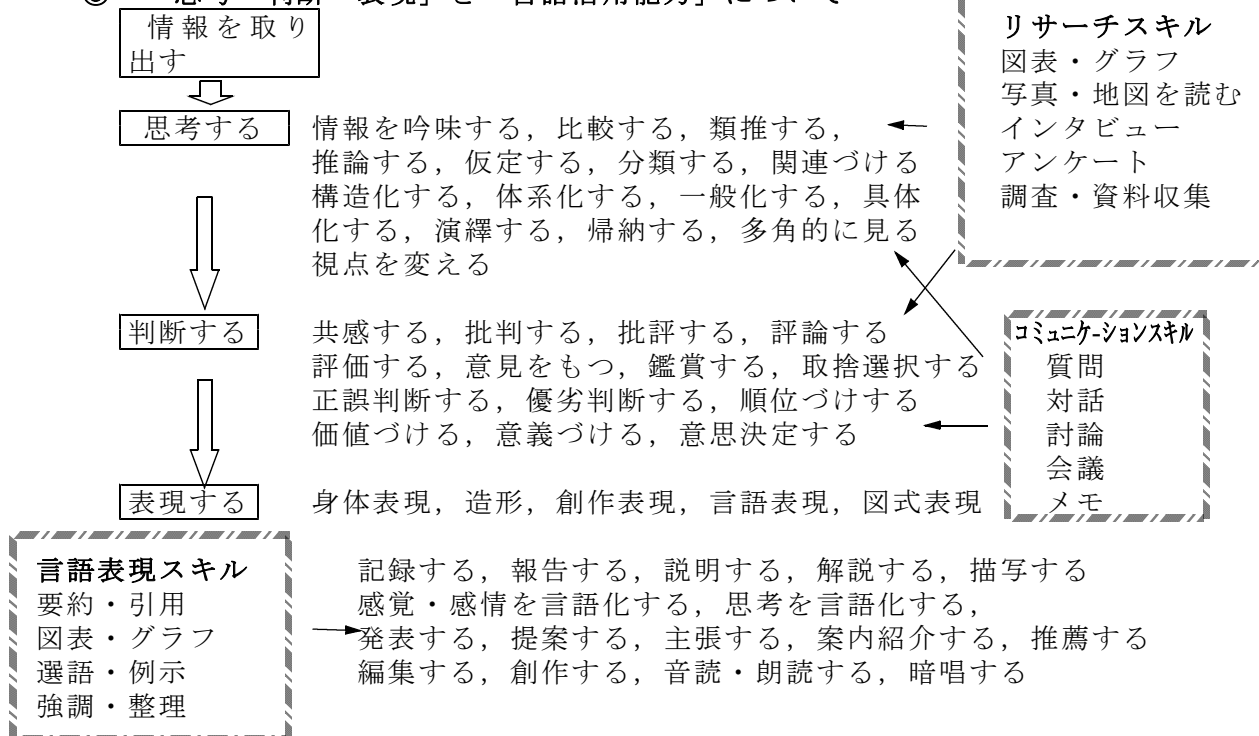
「聞く」・・・『社会で生きる、他から学ぶ姿勢』

※聞くことは、自分で学ぶ以上に多くの貴重な情報を効率的に受信する重要な機会

「書く、話す（話し合う）」・・・『社会で生きる、他にわかるように表現する力』

※言語活動を充実させる授業では「情報を受信→熟考→発信」という基本の形を重視することが大切である。

③ 「思考・判断・表現」と「言語活用能力」について



④ 学習シーンについて・・・言語活動の場の仕掛け

思考力・判断力・表現力を高めるために学習シーンを授業に設定し、授業としての言語活動を明確にし、実践に努めている。

例1 授業の「はじめ」と「おわり」に言語化を意識する

○授業者は「はじめ」に課題を「○○は△△△△なのだろうか？」のような質問文の形で提示する。学習者は「おわり」に「○○についてわかったこと」を自分の言葉で文章として記述する。単なる感想として終わるのでない。

Q 植物はなぜ成長するのだろうか？

×

Q 何が植物の成長を促すのだろうか？

○

(検証できるような観点を絞った質問の仕方)

◎わかったことを言語化する

◎学習の仕方をメタ化する

ことに留意

例2 言語活動を意識するために教師側が授業の中ですること(言語活動の充実の方策)

○体験を取り入れる。

○事実や知識を正確に伝達・指導する

○概念・法則・意図などを十分解釈し、説明する。

○情報を分析させる。

○お互いの考えを伝えさせる場面を設ける。

※「各教科における言語活動の充実」は、各教科における目標ではなく方法である

⑤ 講演「新学習指導要領のキーワードを授業に取り込む」について

千葉大学教育学部 伊坂 淳一先生

I 言語行為の類型

①論理的思考力

②相互伝達力

③内的表出力

II 言語機能

①話す・聞く行為

②話し合う行為

③書く行為

④読む行為

III 「PISA型読解力」の目標との関係

①目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

②評価しながら読む能力の育成

③課題に即応した読む能力の育成

④テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

⑤日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

⑥多様なテキストに対応した読む能力の育成

⑦自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

IV 千葉大学教育学部附属中学校の事例より(保健体育科 2年生 バレーボールの授業から)

①ボールの処理に適したパスの種類を選択する。

②選択したパスに対し、評価する。

③サービスの軌跡を全員で予測する。

④誰がレシーブするか、判断する。

⑤仲間の助言を活かしてプレーを修正する。

⑥ボール処理に適したパスの種類を選択する。

⑦学習の成果を記述する。



保健体育科が捉える

・思考力・判断力・表現力
の育成

4 感想

各教科の内容に即して思考・判断したことを表現する活動と一体化して評価することが大切になると感じた。それは表現する活動を通して思考・判断が行われるからである。言語活動の充実とは決して言語力をつけることではなく、言語活動がどういう場面で設定されるかを教師側が意識するだけで良いのだと視点を変えることができた。情報がいくらかでも手に入る状況で、課題解決するためには情報選択能力はもちろん、何が欲しいのか、思考を掘り下げていく過程が必要だ。その過程を授業の中に盛り込んでいくのが、五中の「学習シーン」をつくることである。また、思考表現力をつけるためのスキルとして「リサーチスキル」「コミュニケーションスキル」「言語表現スキル」があることがわかった。学習シーンを明確に提示してある授業が数多くあり、今後の授業づくりのポイントとして参考にしたい。